

第 3 回四万十市立小中学校再編検討委員会における主な意見等

平成 29 年 2 月 9 日
第 4 回 検 討 委 員 会

〔主な質問と回答〕

- 複式解消のみを条件に統合した場合、その数年後にまた複式になる可能性はあるか。
⇒ 複式解消のみを条件とした枠組み（資料 3・4 の案 1）では、児童生徒数の推計から再度統合を検討しなければならないことも考えられる。
- 統合後においても部活動等を理由とした「指定学校の変更及び区域外就学」は可能か。
⇒ 引き続き理由によって許可していくことになるだろう。

〔主な意見〕

- 通学時間の目安として、スクールバスで片道 1 時間以内としているが、小学校低学年にとっては負担が大きい。
- 子どもたちの将来のことを考えた場合、また 2 回の統合を経験させないためにも大規模に統合しておいた方がよい。
- 下田小、竹島小は地震・津波被害等が心配されるので、東山小と統合してはどうか。
- 北部地域（富山・蕨岡・大川筋・後川）の小学校および中学校が一つに統合することは、地理的条件などから課題がある。地区によっては、統合するなら中村小・中との統合を希望する地区もあると思う。

【確認事項】

- ◎西土佐小中学校においては、再編の経過や地理的条件等を考慮し、当面の間、再編対象とはしない。
- ◎中学校は、3 校区（西土佐含む）が望ましい。
- ◎小学校については、上記意見を踏まえ、次回以降再度審議する。